

避難所・学校のウイルス集団感染対策

避難所対策・集団感染防止

自治体崩壊の危機

新型コロナウイルスの感染拡大が再び懸念される中、7月4日九州南部が記録的な大雨に見舞われた。九州各県計約130万人に避難指示が発令された。6日20時現在、政府は感染対策としてマスクや消毒液等物資を被災自治体の要請を待たずに送るフック型支援を実施。農水省は熊本県に食料、飲料を順次供給した。7日現在依然として予断を許さない状況が続いている。

「密」な環境になる避難所は新型コロナウイルスにどう対応したらいいのか。水害で集落町民のほとんどが避難所に集まった場合にそこで集団感染が起これば自治体機能の崩壊につながる。ソニールアイスタンスを満たすには、いままでの避難所数とスペースでは足りなく、大雨や出水・台風期に避難所運営が困難になる恐れがある。

避難所では通常、感染防止のため受付で避難者全員の体温を測定し、熱がある場合は、他の避難者と隔離した部屋が割り当てられる。受付には手指消毒のための消毒液も設置され、トイレや共用部の除菌がされる。



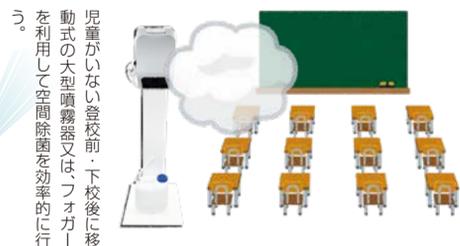
「密」を回避するための避難所帯の間にはついでに設置された2メートル程度の距離が取られることが多く、避難所帯同士の距離を保つ分、スペースが足りなくなる例も多く、体育館以外のスペースも使わざるを得ない状況も現出する。

全国でも、実際の新型コロナウイルスにどう対応した防災訓練がなされているところは少なく、除菌や隔離の実態は九州災害の反省点を参考にしていこうことになる。ウイルス集団感染を防ぐ除菌マニュアルの作成が急がれる。

学校の除菌・感染予防対策

子どもたちの感染防止のためにできること。

① 児童のいない間に空間噴霧



③ クーラーや窓を閉めた状態での除菌

② 玄関マットで除菌



児童がいない登校前・下校後に移動式の大型噴霧器又は、フオガーを利用して空間除菌を効果的に行う。

真夏や冬季に窓を開けて換気ができないため、空間噴霧器を1クラス2台ほど設置して空間噴霧を行う。風評で次亜への不安の声が大きい場合は、非噴霧型の空気清浄器もあり得る。

●各メーカー製品に記載された濃度とPH値及び有効期限を確認し、正しく使用し、注意を良く読み、正しく使おう。

●人がいるまま噴霧しても安全です。各種、安全性や殺菌効果、空間噴霧における浮遊ウイルスの抑制効果等のエビデンスは取得済みです。

●新型コロナウイルスは空気感染が疑われています。対処するには手洗い・マスク・各部除菌・密閉排除だけでなく、感染全体を除去するという取組みが必要となります。

●まれに空間噴霧により、化学物質過敏症等を持っている児童などがある場合は、学校選択の妨げにならないよう、医師などに相談してください。

空間除菌の注意事項

JFK通信

創刊号
発行元
一般社団法人次亜塩素酸水溶液普及促進会議
〒001-0011 札幌市北区北11条西2丁目2-17 セントラル札幌ビル4階 info@jia-jp.net

ウイルスとの長い闘い

次亜塩素酸水溶液が有効と発表

■最強の除菌液が復讐
新型コロナウイルスは7月5日現在で国内3万人に迫る感染者を数え、東京都では連日2000人を超える感染者が発生している。一方で、恐れていた自然災害による避難所設置が現実となり、新型コロナウイルスの集団感染防止がなにより喫緊の課題となっている。

この状況下で数少ない朗報は、恒常的な除菌液不足の中で、4月から行われていた経産省と製品評価技術基盤機構(NITE)の新型コロナウイルスに効く除菌剤の試験調査により、界面活性剤と次亜塩素酸水溶液が除菌効果を持つと発表されたこと。過去にノロウイルスや157、サルスマーズ、新型コロナウイルスの流行にも活躍しており、今回も大きな期待を集めている除菌・消臭液だった。

■誤報と風評
5月28日のNITEによる新型コロナウイルスに対する代替消毒方法の有効性評価に関する検討委員会の中間報告書に「次亜塩素酸水については、今回の委員会では判定に至らず、引き続き検証試験を実施することとされました」とあり、有効性に不安が生じている。NITEからはじめ各種メディアで効果がない「空間噴霧は安全ではない」などの誤報と悪意の風評が広がった。時系列で経緯を記載すると、3月にアルコールな

ど除菌液不足の中で感染防止を止まなくてはならないと、厚労省が国会答弁でも「次亜塩素酸水はエトキシ」が理由で推奨できないというのに対して、4月10日に経産省がNITEと試験するとう発表があった。

そもそもこの時点では新型コロナウイルスの検体自体が国立感染症研究所にしか保管されておらず、その検体の供給が始まってからやっと各試験機関での有効性の試験が始まったのである。

5月には北大玉城名誉教授研究グループと帯広畜産大学研究グループでそれぞれ次亜塩素酸水溶液の新型コロナウイルスへの除菌効果試験結果は有効との判定を発表した。

5月28日の製品評価技術基盤機構NITEの中間報告は現時点では確認されていないというもので有効性を否定しているものではなく、次回報告を待つのだった。

■風評の正体
委員会資料で添付されているファクトシートから報道を起こしている記事もあつたが、ファクトシートは検討委員会時点での知見をまとめたもので随時修正されて、現在6月4日現在のNITEホームページでは報道根拠を全てくつがえす掲載を中止している。

空間噴霧についてもNITEが試験をして危険性を警告しているという事実はない。ファクトシートに参考情報として掲載しているのも次亜塩素酸水溶液を特定した見解ではなく、「消毒液」という大きなくくりでの注



意喚起で同じく掲載された当初次亜塩素酸水を含む消毒薬の噴霧については「あつたものを次亜塩素酸ナトリウムに殺菌作用を注意事項である」と追記修正している。WHO見解も米CDC資料も消毒剤と記載されており、次亜塩素酸水溶液を特定していない。後に「次亜塩素酸水ナトリウム」のことで判明し、CDCでは有効消毒剤として次亜塩素酸水溶液を追加指定している。事故情報データベースに報告された2タバンクに報告された2例についてはメーカー名も薬剤名も濃度も確認しないまま掲載されており、薬剤の問題が使用方法の問題かも知れない。研究機関の分析もいまま、書き込みだけで「人体への実際の影響がある」と断定するかの後に削除された。

■業界団体の設立
このように誤報と悪意の風評の中で「コロナ」感染対策の最前線で戦ってきた次亜塩素酸水溶液生産メーカーや販売業者は、名譽と信用を失墜し、業界の危機を迎えることになった。この状況を危惧した科学者や一部のメーカーが中心になり6月11日に有志団体である次亜塩素酸水溶液普及促進会議が記者会見を行った。この記者会見を聞きつけた全国のメーカー、販売業者、ユーザーが駆けつけ熱いメッセージを送った。その後多く賛同者の情報や関係局への働きかけにより文部科学省の学校への使用禁止の通達は6月16日に修正された。

一方でこのひと月足らずの間に次亜塩素酸水溶液の空間噴霧を中止した施設で感染症が流行するなど恐れていた報告もあつた。

■最終報告で有効性を宣言
6月26日のNITEの発表では次亜塩素酸水溶液は新型コロナウイルスを殺菌する機能があるということが証明された。ただし驚くことに前回の5月28日の誤報を呼び起こしたときと同じように試験結果の報告とは全く別物の委員会が関知していない。ボスター、テラシなどが同時に発表され、報告にない書き込みと間違つた事実が発表された。国民の健康を守るために一番効果的な活用方法は空間噴霧。30年にわたる数多くの動物実験と学術研究の成果を全く無視して風評に則つて危険性を言い立てると言うアングエアな過ちが繰り返された。科学に対しては科学で議論する、風評に惑わされない常識ある正しい報道が求められる。

■九州豪雨と感染防止策
次亜塩素酸水溶液の有効性が実証された間もなく7月3日九州地方を記録的豪雨が襲った。避難所における集団感染は、いままも恐れられている事態である。小さな町村で感染者が何割にも一気に感染が広がりがねないままここにある危機である。1カ月あまりも戦線から離脱させられた次亜塩素酸水溶液の復讐はまさに天の罰である。

6月26日の経産省発表を受けて6月29日に科学者とメーカー、販売社などが一般社団法人次亜塩素酸水溶液普及促進会議を設立した。設立総会でのメッセージは「苦しみと怒りと悲しみの中にあります。この世界中すべての人々が苦しんでいる新型コロナウイルスの戦いの中で、私たちの業界は幸いにも私たちが製造し販売する除菌液を以って新型コロナウイルスに効くのではないかと大きな期待を背負って製造し供給しています。医療関係者が病院で日夜戦うのと同じく、マスクやアルコールの供給を絶やさないよう頑張っている業界と同じように休日も返上し徹夜でウイルスと闘うための除菌液を供給し続けました。ところが5月28日の経産省の委託を受けたNITEの中間発表を心ないメディアが不公正な報道を行ない誤った風評と誹謗中傷がわが業界を襲いました。一夜にして私たちの誇りと信頼と家業が失われる厄災に見舞われたのです。全く科学的論拠を持たない誹謗中傷と思ひ込みをもとに作られた記事やテレビ報道により国内に次亜塩素酸水溶液が効果がなくまた危険なものであるという心証操作が行われました。この状況を危惧した科学者や一部のメーカーが中心になり6月11日に有志団体である次亜塩素酸水溶液普及促進会議が記者会見を行いました。この記者会見を聞きつけた全国のメーカー、販売業者、ユーザーが駆けつけ熱いメッセージを送ってくれました。この会見を以つてもなお不公正な報道が流れまわりました。その後多くの賛同者、同志の方々の情報のやり取りや関係局への働きかけにより文部科学省の学校への使用禁止の通達は6月16日に修正されました。

一方でこのひと月足らずの間に次亜塩素酸水溶液の空間噴霧を中止した施設で感染症が流行するなど恐れていた報告もあつた。



一般社団法人次亜塩素酸水溶液普及促進会議設立総会

一般社団法人次亜塩素酸水溶液普及促進会議設立

塩素酸水溶液は新型コロナウイルスを殺菌する機能があるということが証明されました。ただし驚くことに前回の5月28日の誤報を呼び起こしたときと同じように試験結果の報告とは全く別物の委員会が関知していない。ボスター、テラシなどが同時に発表され、報告にない書き込みがあり間違つた事実が発表されました。国民の健康を守るために一番効果的な活用方法は空間噴霧です。30年にわたる数多くの動物実験と学術研究の成果を全く無視して風評のままに危険性を言い立てると言う過ちを見逃すわけにはいきません。科学に対しては科学で議論する正しい社会で、風評に惑わされない常識ある正しい報道がなされる世界に戻りたいものです。これから多く多くの規制や誤報が立ちまわってくると思ひます。子供たち、お年寄り、国民の命と健康を守るため業界を挙げて努力してまいりますのでご支援ご協力をお願い申し上げます。詳しくはホームページへ(検索)次亜塩素酸水溶液普及促進会議。

新型コロナウイルスに次亜塩素酸水溶液が有効と経済産業省・NITEが確認しました。

6月26日 https://www.nite.go.jp/ ナイト 次亜塩素酸水 検索

安全性に関する公共機関の試験結果が過去20年間に数百例公表されています。 https://jia-jp.net/ebi.html

次亜塩素酸水溶液は空間噴霧が可能な除菌・消臭液です。

○空間噴霧することで床・壁・机・ドアノブ室内全体が除菌・消臭されます。(JFK実験 https://jia-jp.net/)

○空間噴霧した次亜塩素酸水溶液は、吸入しても人体に害がないことが動物実験で証明されています。

○次亜塩素酸水溶液の空間噴霧は労働安全衛生法に基づく作業環境評価基準で安全性が示されています。(上記安全性の試験結果はJFKホームページ https://jia-jp.net/ にて動画で閲覧できます。)

空間噴霧がウイルスに有効

講演抄

6月26日「JFK設立記念シンポジウム」において三重大学大学院の生物資源学研究所で洗浄・殺菌工学界隈化学・廃水処理工学を専門とし「次亜塩素酸の科学」の著者でもある福岡智司教授が次亜塩素酸水溶液の空間噴霧の有効性と安全性を考えた上で講演を行った。

■空間における微生物制御
超音波振動子の上に薄い水の膜をかけて表面に向かって超音波をあてると、水柱が立つ。そこにエアを吹き込んで外に出すことによって、微細粒子が噴霧されることになる。噴霧された微細粒子は重力によって落下していく。そして水の揮発、次亜塩素酸の揮発を伴いながら粒径が小さくなりやがて目に見えなくなる。室内空間に放出された次亜塩素酸は、微細粒子のなかに留まっているものと、揮発して気体状次亜塩素酸として室内に拡散したものがあつた。これら2種類が作用するようになっている。これを微生物制御に利用するためには、それぞれ量を制御し、測定し管理しなければならない。気体状次亜塩素酸は塩素ガス検知器で容易に測定可能である。

■安全基準について
気体状の物質に対しては、労働安全衛生法の作業環境評価基準、日本産業衛生学会が定めた作業環境における許容濃度がある。これは塩素ガスに対しては定められており、0.06ppm(600ppb)とある。一方で次亜塩素酸の作業環境許容濃度はない。1つ目の理由は、次亜塩素酸の標準ガスがないことである。2つ目の理由は、塩素ガスは生体内の水と反応すると生体に作用する次亜塩素酸に変わることで影響を見るのだから、塩素ガスの影響を見るのが理にかなっている。塩素ガスの安全基準を適用している。微細粒子の次亜塩素酸については、現在、作業環境許容濃度は指定されていないので、動物実験を用いた吸入毒性試験、目刺激性

国民のみならず安心して活用してもらえようにより理解しやすいエビデンスや事例などを公表し、当局と一緒にガイドラインを検討していくなどして科学的根拠のない誤った風評を正していくと発表。

新型コロナウイルスとの闘いは始まったばかりであり、JFKではその強力な戦力となる次亜塩素酸水溶液の普及と活用を促進していくことを表明。

JFKは、「NITEの報告と同時に厚生労働省、経産省、消費者庁の口が入ったボスターが発表されたがこれはNITE委員会の監修を受けていないもの」と認識している。今回報告された試験結果をもとに委員会の監修を経て正しく作られたものではない。数値的には報告書から引用されているかのように見えるが、明らかに間違いが多くあると指摘。

特に「科学的根拠がないままに次亜塩素酸水溶液の空間噴霧が危険であり推奨しないと記載されているが、公的機関により数回にわたり動物実験により人間に害がない」という科学的証明がされており、労働環境基準値の数十分の一という法規制に従っている商品に対してなんのデータもなく風評のままに危険であるとの発表が発表する事は誤った風評の拡大を行っているものでありすぐに撤回するべきである」とJFKは述べている。

試験などを行っている。pH8.4、100ppmの次亜塩素酸水溶液で加湿した空気を90日間ラットなどで動物実験を行ったが、血液学的検査、血液生化学的検査、肺の病理組織学的検査いずれも特記すべき影響は見られなかった。マウスの目に当てたときも刺激反応は得られていない。これはほんの一部で、各社について安全データを保有している。

■室内の噴霧実験
1立方メートルの箱を会議室と見立て、過剰噴霧を想定した実験をした。100ppm、pH5及びpH7で1時間噴霧。1時間後には微細粒子で霧がかり結露ができて、中がよく見えない状態になる。噴霧すればするほど、濃度がどんどん上がると思われるかもしれないが、30分後は湿度が100%になり、微細粒子から水が揮発しない状態になる。このとき、次亜塩素酸も揮発しない状態になり、床に溜まったり、壁にくっついていたりすることが起こる。結果として、pH5で約1200ppb、pH7で約1000ppbに届くかどうかで平衡状態に達する。つまり、どんなに過剰に噴霧しても1000ppb程度と1つことで、基準値の5分の1程度にしかならない。

■消費者が抱く「安全・安心」
安全はある程度科学的に数値化が可能である。消費者が抱く不安と安心とは、主観的な感情で科学的根拠がない。企業が科学的に数値化・制御している安全と、消費者が抱く安心をつなぐものが、信頼である。消費者に対して、科学的根拠を示しながら信頼を勝ち取るということが必要である。私達は日常、2つの消毒剤成分を飲んでいる。1はアルコール、2は目には水道水に含まれる次亜塩素酸である。有害なかな有用なかな濃度によって決まると思う。濃度を適切に制御すれば有用である。紫外線(UV)について、人間はその殺菌作用の恩恵を受けてきた。紫外線に当てるだけで服のシミが消える。たまた当たりすぎると良くない。

い、日差しが強ければサンングラスをかける、帽子をかぶる、長袖を着る、部屋に退出する。問題なのは過剰な異議が良くないことだ。うまく付き合えば良い。

絶対に安全な殺菌剤成分はない。安全な濃度の調整、使用方法があるだけである。

自動車は便利な一方、交通事故が絶えない。ただ、自動車からこんなことかという、そういうことはない。安全運転を心がければ良い。

6月26日一般社団法人次亜塩素酸水溶液普及促進協議会設立総会記念シンポジウム講演より抜粋。詳しくは次亜塩素酸水溶液普及促進協議会ホームページへ。

北大研究グループが次亜塩素酸水のウイルス不活化を発表

6月2日北海道大学玉城名誉教授と人獣共通感染症リサーチセンター(高田礼人教授)が、微酸性次亜塩素酸水(pH5.5)の有効塩素濃度40ppmの新型コロナウイルスに対する強力な不活化効果があることを発表された。

次亜塩素酸水(pH5.5)の有効塩素濃度40ppmは新型コロナウイルスを瞬時に不活化する。今回の2度目の実験条件は、反応液におけるウイルス液とサンプル液の比率が1対19以外、6月3日は1対9すべて同じである。同じ条件で2回実験を繰り返してその再現性を担保した。

2回の実験において、使用した次亜塩素酸水は前回同様30秒、1分、5分、10分の反応時間でウイルス感染価を約5桁減少させた。実験で検出可能なウイルス感染価以下まで不活化した。

今回の実験で、微酸性次亜塩素酸水(pH5.5)の有効塩素濃度40ppmは前回の強酸性次亜塩素酸水に引き続き、新型コロナウイルスに対する強力な不活化効果があることが実証された。

消毒用アルコールなどがひびくくしている現状に代えて、強酸性(pH2.7未満)だけでなく微酸性(pH5.5)の次亜塩素酸水が新型コロナウイルスに対して有効と判断されたこと意義は非常に大きい。すなわちアルコールの代替品ではない、独立したより安全な消毒剤としての次亜塩素酸水の有効活用は新型コロナウイルス感染症予防対策に大きく寄与することが期待できる。

北海道大学玉城名誉教授は、次亜塩素酸水(強酸性pH2.7未満および微酸性pH5.5)は、比較的容易に入手可能で、食品や物品等の消毒の他に「手洗いに有効な資材」として推奨できます。私たちは新型コロナウイルス感染症の予防対策のために、次亜塩素酸水の有効



海外での空間噴霧活用事例
海外では次亜塩素酸水溶液の噴霧は日常的に行われている。

韓国: 自宅の消毒作業
中国: 次亜塩素酸水噴霧トンネル
各地で大量の次亜塩素酸水溶液が噴霧された

UAE(アラブ首長国連邦)
イギリス: 除菌トンネルによる噴霧。次亜塩素酸水溶液は政府も除菌効果認める。

ロシア: 面会者は全員「殺菌トンネル」通過。プーチン大統領が命令(ライタービデオ(写真右)) モスクワ中を噴霧車で除菌(写真左)

詳しくは次亜塩素酸水溶液普及促進協議会ホームページへ。

新型コロナウイルスに次亜塩素酸水溶液が有効

■NITEの発表
NITE(ナイト)「独立行政法人製品評価技術基盤機構」は、第5回「新型コロナウイルスに対する代替消毒方法の有効性評価に関する検討委員会」を6月26日に開催し、新型コロナウイルスを用いた候補物質の有効性評価結果の最終報告をとりまとめた。今まで公表済み結果に加え、新たに2種の界面活性剤及び一定の濃度以上の次亜塩素酸水が、新型コロナウイルスの消毒に対して有効であることが確認された。

NITEは、経済産業省の要請を受け、新型コロナウイルスの感染拡大に対応し、家庭や職場におけるアルコール以外の消毒方法の選択肢を増やすため、上記検討委員会を4月に設置し、消毒方法の有効性評価を進めてきた。

6月26日、最終回となる第5回検討委員会を開催し、国立感染症研究所、学校法人北里研究所、国立大学法人帯広畜産大学、国立大学法人鳥取大学及び一般財団法人日本繊維製品品質技術センターと共同で進めていた新型コロナウイルスを用いた検証試験結果について審議を行い、最終的な報告をとりまとめ、次亜塩素酸水は有効との発表を行った。

今回の検証結果のとりまとめにより、新型コロナウイルス対策のための家庭や職場における消毒方法の選択肢がさらに広がること期待される。なお、有効とされた界面活性剤を含む洗剤等は、NITEホームページで効果が確認された界面活性剤を含む洗剤等のリストとして公表しており、今回の追加を踏まえた情報に更新した。

今回の発表は、新型コロナウイルス対策に次亜塩素酸水溶液が有効であることを政府が確認した画期的なものである。

一般社団法人次亜塩素酸水溶液普及促進協議会(以下JFK)では、「今回の関連資料の中で、次亜塩素酸水溶液の効果的な活用手段としての空間噴霧について科学的根拠に基づかない否定的記載があるが、

国民のみならず安心して活用してもらえようにより理解しやすいエビデンスや事例などを公表し、当局と一緒にガイドラインを検討していくなどして科学的根拠のない誤った風評を正していくと発表。

新型コロナウイルスとの闘いは始まったばかりであり、JFKではその強力な戦力となる次亜塩素酸水溶液の普及と活用を促進していくことを表明。

JFKは、「NITEの報告と同時に厚生労働省、経産省、消費者庁の口が入ったボスターが発表されたがこれはNITE委員会の監修を受けていないもの」と認識している。今回報告された試験結果をもとに委員会の監修を経て正しく作られたものではない。数値的には報告書から引用されているかのように見えるが、明らかに間違いが多くあると指摘。

特に「科学的根拠がないままに次亜塩素酸水溶液の空間噴霧が危険であり推奨しないと記載されているが、公的機関により数回にわたり動物実験により人間に害がない」という科学的証明がされており、労働環境基準値の数十分の一という法規制に従っている商品に対してなんのデータもなく風評のままに危険であるとの発表が発表する事は誤った風評の拡大を行っているものでありすぐに撤回するべきである」とJFKは述べている。

新型コロナウイルス感染症の新規感染者数が全国で増加している。中でも「次亜塩素酸水溶液」について、一般社団法人次亜塩素酸水溶液普及促進協議会(JFK)が7月20日、都内ホテルで有志による勉強会を開催した。

JFKの越智文雄代表理事の挨拶の後に、「次亜塩素酸水溶液の科学」と題し、株式会社「エス・エス」一取締役開発部長で農学博士の小野朋子氏が登壇。冒頭で「除菌や消毒を目的とした商品が数多く販売されている中で、消費者に正しく分かりやすく伝え使っている」ただ、かかると安心、安全につながる」と挨拶。続いてインターネットでの検索回数を解析したところ、3月29日、4月4日、「次亜塩素酸水」「次亜塩素酸」が検索キーワードのピークを迎えるなど、関心が高まったことを紹介した。

次亜塩素酸水溶液は、高い殺菌効果とウイルス不活化効果、消臭効果、有しているうえに安全性が高いことが大きな特長。液状の次亜塩素酸をさまざまな方法で霧化して噴霧することにより、空間や物品表面の菌やウイルスも除去できるが、熱

や紫外線、有機物などで分解される。これまでも医療・福祉施設、入浴施設、家庭、教育施設、実験動物施設、農業、畜産、食品施設など多岐にわたる分野で、手洗い、器具の洗浄、施設の清掃・空間の除菌や消毒などに使用されてきたが、今回新型コロナウイルスの消毒に対して有効性が認められた。

今回の経済産業省および独立行政法人製品評価技術基盤機構(NITE)の発表でどのような製法で作られた次亜塩素酸水でも同じ濃度、pHであれば同じ効果があると認められた。製造方法は大きく分けて電解方式と非電解方式、非電解方式の中でも二液混合方式、緩衝方式、顆粒方式などがある。それぞれpHと有効塩素濃度を確認して使用する必要がある。

次亜塩素酸イオンは次亜塩素酸では殺菌の仕組みに違いがあり、「細菌をアタックする時に、アルカリ性の次亜塩素酸イオンは細胞壁を通ることができず、表面のみを酸化分解することにより殺菌する。弱酸性の次亜塩素酸は細胞壁に入り込むことができ、表面だけでなく内部から殺菌していくことができるので、同じ濃度であれば早い時間で

殺菌することができます。同じ時間をかけていいたのでは低い濃度で使うことができる。耐熱性細菌とも呼ばれる芽胞菌に比べてデータや次亜塩素酸ナトリウムと塩素酸に比べてデータで次亜塩素酸の殺菌効果が高いという結果を示した。

今回の混乱の中で、次亜塩素酸ナトリウムと次亜塩素酸水を混同して使ったり、混同して理解されている方が多かったのではないかと懸念。物性(物質がもつ性質)や使い方で次亜塩素酸ナトリウムと次亜塩素酸水(強酸性次亜塩素酸水)とを分けて使用することが重要として、pHと原液の濃度の違いを確認し、次亜塩素酸ナトリウムの空間噴霧は絶対に行わないことなど注意を促した。

また、今回の発表で有効性が認められた消毒剤との比較や安全性などにも言及。「どんな薬物でもまいたら危険だ」という意見もあろうと思うが、人間やウイルスに対する適正濃度で、人間や哺乳類昆虫などに影響が出る濃度は離れている。そういった意味で、次亜塩素酸水溶液は安全に使っていいのではないかと認識を示し、万が一吸い込んだり、目に入った場合でも気管や鼻腔内に有機物に触れると成分が失活すること、粒子径が5マイクロ以上であれば鼻粘膜に付着して体内に入り込む危険性は少ないことなどを説明した。

そのほかに製造口や成分、使用方法、使用期限の記載がある製品を選び、なるべく直射日光の当たらない場所で使用し、冷暗所で保管する。掃除の際はしっかりとめに接触させる、といった注意点をまとめた。

この日は北海道大学の玉城英彦名誉教授や東京工業大学の奈良林直特任教授などの講演も行われ、関係者は熱心に聞き入っていた。「勉強会の様子はJFKのホームページに掲載」

にしてもその取り扱い説明書をよく読んで十分に気をつけて使ってください。



詳しくは次亜塩素酸水溶液普及促進協議会ホームページへ。